

一般質問通告書

2024年 2月22日

高島市議会議長 廣本 昌久 様

高島市議会議員 11番 福井 節子

次の事項について質問いたしたいので通告します。

※質問項目（番号）が2以上ある場合は、次のどちらかに○をつけてください。

- ・質問番号1の用紙にだけご記入ください。
- ・質問が一つだけの場合は必然的に1となりますので、記入は不要です。

- 初問は
- ①. 全項目一括質問一括答弁
 - 2. 項目ごとに一括質問一括答弁

(質問番号 2) 発言事項	住民合意ないまま、拙速な大型ごみ処理施設建設でいいのか
要旨（項目だけでなく、質問の趣旨が理解できるように記入してください。）	
<p>地球温暖化、脱炭素のもと、新ごみ処理施設建設計画と同時に、一般廃棄物収集分別減量と再資源化を、市が先導し市民協働で進める施策の推進をと、党議員団は一貫して求めてきました。</p> <p>市民団体も、「分別リサイクルの抜本推進。可燃ごみ半減、再資源化30%を」と提案してこられました。ごみ問題に関心の高い市民の皆さんは、この3課題は「ごみ焼却施設がなく、これから新しく建設する今だからこそ、しっかり検討し話し合い、学習して行こう」と市環境政策と協働できるのではないかと行動されてきました。私たちはその声や行動に共鳴し、共に行動し発言してきました。</p> <p>しかし、市は検討委員会の答申を受け、土地取得の予算を計上し「運営事業者選定委員会」を設置。泰山寺地域だけでなく、周辺7地区に対する振興費を債務負担行為として、新年度予算に計上しました。</p> <p>それまでに昨年12月から本年1月にかけて、基本計画のパブリックコメントが募集され</p>	

ており、2月に行われた検討委員会に意見と、市の回答が示されました。

市民の皆さんからは多くの意見が寄せられており、委員長からも「市民のごみ分別・減量について多くのパブコメが寄せられており、関心と意識の高さを評価する」旨の発言がありました。そこで以下問います。

- 1、 21.5トンと2機、43トンの炉を持つごみ処理施設は、「大型ではない」との答弁になると思うが、パブコメに寄せておられる皆さんは、市の財政規模から見て、また、少子高齢化が進む高島の将来を考えて、250億円も建設費と運営費が掛かる大型公共事業が、本当に必要か。子どもや孫に「なぜこんな借金残したのか」と聞かれて答えられるのか、皆さんたいへん心配をされているのではないのでしょうか。市は「施設規模は、人口・ごみ量減少やリサイクル処理量を見込んだ数値で考えており、運営段階でもごみ減量によりごみ処理費用を縮減する」と市の考え方が示されていますが、理解が得られたと考えていますか。
- 2、パブコメでは、「プラ新法が2022年にスタートしているのに、8年も先にしか本格的リサイクルが出来ないのは遅すぎる」との意見。また、気候危機、温暖化や自然災害を目の当たりにしているのに、プラスチック・生ごみ含む分別回収、資源化に、市民協働を求める声が一番多くありました。新施設の稼働に合わせR14年度からとしか回答がありません。私もこれまで幾度となく問い掛けて来たところですが、ごみ減量に取り組むとの答弁は有りますが、具体的な提起は見えません。地球規模の気候危機の状況を鑑みれば、今からごみの分別と資源化を、市として取り組みを強化すべきではないでしょうか。

市民や市民団体からも、再三、新環境センター準備課題と同時に、分別リサイクル、減量化を提起されている中、なぜ、同時並行の政策判断が出来ないのか伺います。

- 3、災害についての意見もありました。新施設建設予定地は、地震災害で震度6弱の予測値となっており、UPZ圏内でもあります。市の回答では、災害拠点となる施設にしていくとのことですが、原発災害では避難先とは出来ませんし、地震災害でも心配されるところです。続く大震災や原発事故から、被災評価の見直しが必要でないでしょうか。
- 4、泰山寺地区に2億円、隣接7地区に2億円に対する不信感、不公平感もあります。また、「住民の合意形成を図る事」との議会附帯決議もありましたし、市長も「丁寧に説明する」旨の発言もありました。しかし、まだ周辺地域から反対する要望書の提出もあります。搬入路

についても、まだ確定した物になっておらず、搬入道路の新設や改修などにも多額の費用が上乗せされる予算に、心配をされています。「それでいいのか」と疑問を持たれている方もおられるのではないのでしょうか。そうした市民の声がある中、新年度予算で土地取得に踏み出すことに対する見解を伺います。